



JA種子屋久 日本農業新聞

日本農業新聞に掲載された当JAの記事を一部ご紹介

12月18日

稲刈りスタート 鹿児島県



収穫作業をする生産者

日本一早い新米コシ
鹿児島・JA種子屋久
【鹿児島・種子屋久】JA種

3月の田植え以降の天候不順で、初期生育が悪く、やや丈が短い。分けつ数も少なく収量は減る見込み。6月の出穂期以降、天候に恵まれ例年より早い収穫を迎えた。
主食用米の流通在庫の減少で引き合いが強くなり、24年産の仮渡し金額は大幅に上昇している。
JAは、日本一早い「新米コシヒカリ」として早期米栽培に取り組む。生産者の小山田和己さんは「良い米が収穫できた。来年度以降も安定した価格が続いてほしい」と話す。

導入100周年

ポンカン最盛良食味

試食PR原木果実も販売

【鹿児島】鹿児島県の屋久島に台湾からポンカンが導入されて100周年を迎えた。今年産は12月上旬に販売が始まり、中旬が出荷ピーク。台風10号の影響で、例

鹿児島・種子屋久
JA種子屋久

年より少ない約100tを計画したが、食味は例年通り、良好に仕上がった。糖度・酸度のバランスが良く、香りの高さが特徴で、贈答用に人気がある。

JA種子屋久屋久島 鹿児島市内の3カ所です。支所は14、15の両日、果実試食宣伝販売会を



開いた。百貨店の山形（25）でポンカンを栽培屋前ではJAと県経済連、生産者の代表らがPRした。導入された当時の原木から収穫した「原木ほんかん」を100個限定で販売。原木は200本のうち7本が今も残りの実を付ける。他に1キロ350円の屋久島産ポンカンも販売した。JA屋久島果樹部会 鎌田正光部長は「100年は素直にすいと思ふ。今後もJAや行政と協力して栽培していきたい。今年も例年通りおいしくポンカンに仕上がった」と話した。JA屋久島果樹部会では現在、65戸が

指導員が小学校で出前授業

JA種子屋久

【種子屋久】JA種子屋久は19日、中種子町の野間小学校で出前授業を行った。営農販売課の川下道雄指導員が3年生に種子屋久で盛んな農業について説明した。

ジャガイモ、スナックエンドウ、ブロッコリーなどを紹介した。児童らは「じゃやて育てているのか」「どのようないい育てているのか」と質問した。



川下指導員の質問に元気に手を挙げる児童ら

子ども食堂協力 安納市ヒザ完成 西之表市野菜部会 協議会園芸女性部 【種子屋久】西之表市野菜部協議会園芸女性部は10月中旬、西之表市の子ども食堂「はまの会」でジャガイモ、スナックエンドウ、ブロッコリーを使ったピザ作り教室を開いた。野菜の苗や花の写真を何枚かを当てるクイズや実際に芋の花やブロッコリーの苗に触れもらい、子どもたちに食と農の大切さを伝えた。部会員は「子どもたち



一緒に調理をする参加者たち

11月29日



【種子屋久】JA種子屋久女性部西之表支部は10月中旬、県立種子屋久高等学校生物生産科の2年生6人と共同作業になった。パッションフルーツに砂糖を加え、煮詰めると糖度が50を超えるあたりから、1度糖度が上がると味が劇的に変化するため、慎重に糖度を測り、適当なタイミングで加熱を止めた。同部の河本アツミさんは「教えていただいたレシピを実践し、しっかりと作れるようにがんばりたい」と話した。パッションフルーツジャムは、種子屋久高校で加工食品として販売されている。

11月15日

11月1日

10月9日

高校生、食と農で光る

ジャム作り提案

県立種子屋久

【種子屋久】JA種子屋久女性部西之表支部は10月中旬、県立種子屋久高等学校生物生産科の2年生6人と共同作業になった。

とパッションフルーツジャムづくりを行った。かごしまの食と農を未来につなぐ農業教育推進事業「農業高校生のコラボレーションチャレンジ」事業の一環。同校からの提案で、同女性部にレシピを提供する目的で共同作業になった。



青果用サツマ

【鹿児島・種子屋久】種子屋久管内で10月上旬に2024年産青果用サツマの収穫が最盛期を迎え、今年度は降雨による影響なく、生育は順調だ。管内は主に「安納紅」「安納ね」「種子屋久ゴールド」産。栽培面積は約89ha、生産量は1061tを見込んでいる。「安納紅」と「安納ね」は22年3月、「種子屋久ゴールド」として地理

農業新聞代金は、

☆農業新聞の購読は1ヵ月紙版で3,100円（税込）、電子版で2,403円



【全体運】作業の効率化に成功し仕事がスピードアップ。空いた時間は大切な人のために使って。捜し物は見つかる予感
【健康運】血行を促進。肩凝りは早めに解消して
【幸運を呼ぶ食べ物】セリ